

# テーマ:音

巣鴨第一保育園(豊島区)

## テーマを設定する

普段の活動の中で子供たちは、歌やリズム活動が好きなので、楽器や音に親しむ探究に取り組み、音やリズムへの興味関心を広げ、音を楽しむ体験の機会としたい。

## 活動① アーティストワークショップ1

身の回りにあるものから音探し

## 環境をデザインする

●準備した物 ついたて(音あてクイズをする際に出題者が隠れて音を出す)、紙筒の集音器、時計、A4のコピー用紙、水を入れたペットボトル、蓋に穴を開けたペットボトルキャップ(ボウルに垂らす際に使用)、ボウル、スプーン、紙コップ、毛糸(スプーンを叩いた振動が紙コップに伝わるように、セロハンテープで毛糸をつなぐ)

## 探究活動を実践する

- 活動内容
- ①すなまきさんがクラリネット・アコーディオンで演奏する「おどるポンポコリン」にあわせて口ずさむ
  - ②「今日は身の回りの音に注目してみたいと思います」
  - ③音あてクイズ「何をして出している音でしょう？身体しか使ってないよ！」(ついたての裏ですなまきさんが音を出す) くちびるブルブル/手をすりすり/鼻でンガツ
  - ④お友だちの心臓の音を聞いてみる
  - ⑤紙筒の集音器で音を聞いてみよう 時計の音/窓を開けて外の音
  - ⑥紙でいろんな音を出してみよう。ゆらゆら・はじく・まるめる・壁に当てる・・・
  - ⑦水の音を聞いてみよう。水の入ったペットボトルを振る・ボウルに垂らす・・・
  - ⑧スプーンの音を聞いてみよう。糸で紙コップにつないでみると？
  - ⑨「明日は、何かつくって音を出してみようかな」予告をして終了
- 子供たちの様子
- ・筒を使った音探しの場面で「時計はどんな音？」と問いかけられると…「カッチンコッチン」「チンチン」「トゥーン」
  - ・「紙はどんな音が鳴るかな？」と問いかけられると…紙を耳にピタッとつけて音を探している子ども。
  - ・スプーンの音を聞く場面では、鉛筆でスプーンを叩くと、紙コップから不思議な音が鳴り響き、夢中で試す姿や、お互いに聴かせ合う姿があった。「カーンカーン」「○○ちゃんのと音がうー！なんで？」「おまつりの音！おまつりたいかいだ！」などの反応が見られた。

## 活動スケジュール(3歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① 音探し(公園にて)	R6.9.25 (水)	30分 程度	18人
② アーティストワークショップ1 講師:すなまき(音楽ユニット)	R7.1.21 (火)	60分 程度	14人
③ アーティストワークショップ2 講師:すなまき(音楽ユニット)	R7.1.22 (水)	65分 程度	15人



## 振り返りをふまえた気づき

- 保育士から
- ・自分で見つけた音を、誰かに聞かせたいという気持ちになったようで「聞いて！」と保育士や友達に聞かせる姿が見られた。
  - ・耳を澄ませる時に、自然と集中する姿が見られた。紙からどんな音が鳴るか試す場面で、ただ紙に耳をつけて音を聞こうとする姿があった。
  - ・スプーンの音も、人によって(手に取ったスプーンのサイズや材質によって)音が違うことにも気づけていた。
  - ・音を鳴らしている姿がダンスに見える時もあったので、音から動きにも発展していきやすいと感じた。

# テーマ:音

巣鴨第一保育園(豊島区)

## 活動② アーティストワークショップ2

身の回りにあるものから音づくり

### 環境をデザインする

- 準備した物 ついたて(音あてクイズをする際に出題者が隠れて音を出す)、手作り楽器(ペットボトルキャップ/ティッシュの空き箱&輪ゴム/トイレットペーパーの芯/段ボールと紐をそれぞれ組合わせて作ったもの ※2-3人で一つを試せるように用意)
- 【風の音作りに使用】ビニール袋、紐、新聞紙を細長く切ったもの、鈴、セロハンテープ
- 【雨の音作りに使用】小豆、米、かぼちゃの種、プラスチックバック、セロハンテープ

### 探究活動を実践する

#### ●活動内容

- ①すなまきさんの演奏する「おどるポンポコリン」手作り楽器(※)バージョンを聞く  
演奏に使った手作り楽器の紹介  
※ティッシュの空き箱、ゴム、空き缶、ストロー等、身近な素材でつくられている
- ②音あてクイズ「どれ(目の前にある身近な素材)を使って、音を出しているでしょう？」  
(ついたての裏で音を出す)  
ペットボトルキャップ/ティッシュの空き箱&輪ゴム/トイレットペーパーの芯/段ボールと紐
- ③それぞれ正解発表の後、子どもたちも実際にさわって音を出してみる
- ④「次にみんなで風の音をつくりたいと思います」
- ⑤1人1枚ビニール袋を広げてバサバサ振る
- ⑥ビニール袋に紐と新聞紙のしっぽをつけて、凧に変身！
- ⑦腕を回したり、走ったりして、風をきる
- ⑧「次に雨を降らせたいと思います」
- ⑨ 小豆・お米・かぼちゃの種から1つを選び、プラスチックバックに入れてシャカシャカ振る
- ⑩中身ごとグループに分かれて、小さい雨・ざーざー雨
- ⑪最後にみんなで小雨から大雨になって雨が上がるまでを表現して終了

#### ●子供たちの様子

・アーティストによる手作り楽器の演奏の際、「なんだこりゃ」「あれ？ストローの音がちがう！」「3つ一緒に吹いたら？おっきい音になったね」「おとうふのカップだ！ジリジリ音がする」などという声が上がった。  
・段ボールと紐のヒガッキを試す場面、紐をひっぱる力加減で、低い/高い、短い/長い、と音が変化。音の振動を手を感じたのか、手をグーパーしていた。「うわー！」「ライオンみたいな声！」「なんでえ？」という声が上がった。  
・「風ってどんな音？」と問いかげられると…「シュー」「プシューかな」  
ビニール袋を上下左右に振ると、袋が膨らみ、新聞紙のしっぽが舞い、風が目に見える形になる。バサバサザワザワ、多彩な音に包まれた時、「ねえみて！風つかまえた！」という反応があった。



### 振り返りをふまえた気づき

#### ●保育士から

- ・最初に演奏してくれた「おどるポンポコリン」は1回目でも演奏してくれたが、子供たちの表情に違いがあった。手作り楽器で演奏した2回目は、どうやって音が鳴っているのか不思議なのか、驚いたような表情をしていた。
- ・クイズをしながら、目の前にある素材と、聞こえてくる音を結びつけながら予想を立てられた。どの素材から作っているのだろうと想像することで、創作意欲にもつながったのではないかと思う。
- ・身近な素材でいろいろな音が出せることを知ったので、これからの保育にも活かしていきたいと思う。
- ・今回65分の活動だったが、90分くらい長くても取り組みそうだと感じる。